

# わか草



第47回 平成30年7月1日  
発行 東京都立東部療育センター  
広報委員会  
東京都江東区新砂3-3-25

かもめ  
分教室

## 入学式



入学式にて記念撮影

かもめ分教室では、中学部二名、高等部三名の新入生を迎え、四月十八日に入学を祝う会が執り行なわれました。いつもよりおしゃれをして、盛大な拍手の中を入場し、呼名にしっかりと返事をする姿も見られ、明るく爽やかな会になりました。センターの皆様には、ご列席いただきましてありがとうございます。  
新入生男子五名も新しい学部での学習にもすっかり慣れ、だんだんとたくましくなっています。これからも温かく見守って下さい。（かもめ分教室）

入所

## 移動水族館



触れ合いコーナー  
(移動水族館)

平成三十年四月二十八日(土)に移動水族館の訪問がありました。三ヶ月前に申込みこの日の訪問となりました。駐車場のうみくる号(展示用トラック)はカラフルな色の熱帯魚の水槽と、アナ

ゴなど近海魚の水槽が積まれていました。スロープも設置されていて顔を水槽にくっつけて食い入るよう見つめていました。玄関前の触れ合いコーナーではウニ・カニ・ヒトデ・ナマコを触ることができました。実際に触れてドキドキする人、ナマコを握りつぶそうとする人などがいて、絶え間なく笑い声が響き刺激のある一日となりました。  
(療育部 靄田)

通所

## 入園式



新乳園児を迎え、入園式が執り行なわれました。

新しいお友達と仲良くなるため、みんな一緒に「何でもバスケット」で遊びました。マークが取れなかった子は、中央で「好きなもの」や「お出かけスポット」などの質問に答えて、順番に少しずつ発表してもらいました。じゃんけん列車では勝った子を先頭に、長い列車になって、ぐるぐる回って遊びました。午後はスヌーズレンを行い、お友達と一緒にいろいろな光を楽しみました。  
(乳幼児通所)

通所

## 成人・乳幼児合同通所バスハイク

平成三十年六月七日(木)、八日(金)の二日に分かれて、春バスハイクを行いました。今年度は、成人通所の利用者と一緒に、アクアパーク品川へ行きました。行きバスからドキドキ！到着してすぐのイルカショーでは、音楽に合わせたイルカやくじらの迫力満点のジャンプを楽しみました。海中トンネルをくぐってエイのお腹を見たり、

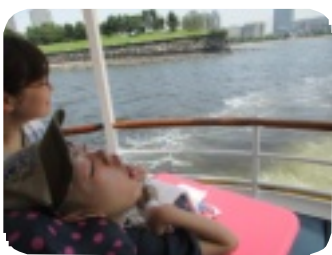


イルカショーにて  
(アクアパーク品川)

入所

## 病棟バスハイク

五月十六日(水)、病棟バスハイク第二班Aコースは、二階病棟の皆様と一緒にお台場から浅草まで水上バスを利用して出かけてきました。天候にも恵まれ、フードコートで好きなメニューを選び、ペットショップで犬や猫を見て癒され、いざ水上バスへ。ここは日本かなと思うほど、船上は外国の方ばかり・・・オリピック建設中の様子や東京の街を眺めながら、



水上バスから  
(病棟バスハイク)

パパ、ママと一緒に  
記念撮影  
(乳幼児通所 入園式にて)

平成三十年四月三日(火)、今年度は二名の

# 原爆小頭症への想い

名誉院長 有馬 正高  
副診療部長 荒井 康裕

◇ 原爆小頭症の歴史的背景と有馬正高名誉院長のご功績について

副診療部長 荒井 康裕

昭和四十一年夏、旧厚生省で胎内被曝による小頭症の実態に関する研究班が結成された。当時東邦大学小児科助教であった有馬正高名誉院長は班員の一人として広島・長崎に赴き、原爆小頭症患者の診察を担当された。当時十六名の胎内被曝者の臨床症状を把握し、他の原因による小頭症との相違の有無を検討する目的であった。

当時、小頭症の報告は二十以上あったが、研究者によって小頭の定義はまちまちであった。有馬先生の調査では胎内被曝者は小頭症、知的障害に加え皮膚の色素沈着や色素脱失所見が特徴的で、色素沈着は数mmから数cmの不整形でカフェオレスポットに類似するものが多く、体幹の胸腹部に多く認められた。有馬先生は所見の陽性率も参考に原爆との因果関係を認めたが、因果関係を認められないアメリカのABC (Atomic Bomb Casualty Commission) 報告書ではこの皮膚病変はフォンレック

リングハウゼン病に起因するとしていた。有馬先生の調査からこれは明らかに間違いであり、先生はさらに被爆地から八〇〇〜一三〇〇メートル以内の出生の確率が高くなることも明らかにし、一九六八年長崎医学会雑誌に臨床所見について報告をされた。

この貴重な報告が原爆小頭症の診断基準となり家族会(きのこの会)の結成とその後への補償に大きく貢献することになった点も先生の特記すべき功績である。

## 原爆小頭症への想い

名誉院長 有馬 正高



有馬 正高  
名誉院長

一九四五年八月初旬、米軍の爆撃機により広島市、ついで長崎市に原子爆

弾が投下された時、私は海軍兵学校予科生徒として山口県防府市にいた。詳細は公表されなかったが、広島、ついで長崎に新製爆弾が投下されたとのニュースを聞いた。

## ◇ 終戦後

八月十五日、天皇の重大報道があることされ、全校生徒が持場でそれを聞いたが、よく聞き取れず、夕方になって日本が無条件降伏だと口づつてに聞いた。兵学校は即刻解散となり、四千人の生徒は一斉にそれぞれの故郷に鉄道で帰り、私は鹿児島市の自宅に辿り着いた。鹿児島市は城山の途中まで焼け野原であったが、鹿児島駅で広島市は核を使った原爆によりもっとひどい状態だと聞いた。

戦争は終わったが、日本は占領され、その後時々、広島市、長崎市が焼け野原のまままで高濃度の放射能のため、人間は当分住むことは不可能であろうと報道されていた。

## ◇ 原爆小頭症

原爆により知的障害を伴う小頭症が高率に生まれた事が報告されるようになり、私は厚生省の研究として小頭症患者の診察・調査を行い、原爆に由来する小頭症は他の原因によるものとは異なる特徴があると確信し、結果を昭和四十三年の「長崎医学」に報告した。

毎年夏になるとあの小頭症の子たちがこのように思われる。

最近、荒井康裕先生が日本経済新聞の電子版で「胎内で被爆、古希の祝い、広島の小頭症患者九人」という見出しを読み、あらためて原爆小頭症について私の思い出を含めて、わか草に掲載したいとお申し出がありありがたうお受けした次第である。



## 【ことば】

### 原爆小頭症

母親の胎内で被爆し、強力な放射線を浴びたことが原因で発症する原爆後障害のひとつ。「小頭症」の症名とおり、頭囲が小さいのが特徴で、ほとんどが知能と身体に障害を持っている。

原爆小頭症の被爆者たちは、母親の胎内で直接被爆した「最も若い被爆者」。二〇一七年三月末現在、厚生労働省が認定している原爆小頭症の被爆者は全国に十八名

(引用:<https://ja-jp.facebook.com/kinokokai/>)

# 日本重症心身障害福祉協会 全国施設協議会報告

(兵庫県・神戸市)



シンポジウムのような  
(兵庫県・神戸市)

五月二十二日、二十三日は兵庫県神戸市で、平成三十年全国施設協議会が開催され、院長、事務長、生活支援科長の三名が参加してきました。

開会式では、開催県を代表して「ここにこハウス医療福祉センター」の川崎洋子施設長の開会挨拶に続き、金澤和夫兵庫県副知事、久元喜造神戸市長の来賓挨拶、木実谷哲史協合理事長の主催者挨拶がありました。

その後、厚労省の刀根 暁障害福祉専門官から「障害者支援施策の動向」について、今年度の障害福祉サービス報酬改定や医療的ケア児への支援体制などについて行政説明があり、引き続き、「ベルデさかい」の児玉和夫センター長から『療養介護と重症心身障害施設のこれからを考える』というテーマで特別講演がありました。

講演の中で児玉先生は、これまでの制度改正の経過を踏まえ、「今日の超

重症児の受入れや地域での在宅支援の状況などを考えると、最早、重症心身障害施設が一番の主役という時代ではない」と話され、また「どんなに障害が重くても支援の仕方次第で様々な活動が可能になっていくという考え方に立って、療養介護の方向を見据えていくべきである」と示唆されました。

二日目は、「重症心身障害児者が社会で豊かにくらすための支援の進化」をテーマにシンポジウムが行われ、ポース記念病院の荒井洋院長、東大和養育センターの曾根翠小児科医長、恵の聖母の家の佐藤圭右施設長、ここにこハウス医療福祉センターの河崎洋子施設長、NPO法人琵琶湖ファミリースペースの熊田知浩理事長、はなちゃん薬局の山岡玄馬薬剤師の六名のパネラーが、それぞれの活動実践について報告がありました。工夫を凝らした様々な活動を知り、とても勉強になりました。

今回の協議会に参加して、施設の方や在宅（地域）支援のあり方等について多くの課題があることを改めて認識しました。

特別講演やシンポジウムで紹介されたように、地域では様々な取組みが行われています。施設役割も、地域との関係の中で柔軟に対応し、利用者本位に考えていく必要があると強く感じました。  
(事務長 水野)

## 第五十五回 重症心身障害児(者)を守る全国大会

守る全国大会

(大阪府・大阪市)



会場のようす  
(大阪府・大阪市)

六月三十日、七月一日の二日間、大阪市で開催され、千二百名が参加し、当センターから渡邊経営企画係長、大野保育士主査と私の三名が出席しました。

### 第六〇回 日本小児神経学会学術集会

(千葉県・千葉市)

五月三十一日(木)から六月二日(土)にかけて「こどものこころとからだの発達に寄り添う小児神経学」と題して日本小児神経学会が幕張メッセ国際会議場(千葉)で開催されました。  
当院からは山本医師により新規遺伝子変異を認めた症例報告および本澤医師により院内呼吸ケアチームの役割について報告されました。

近年、新たな補充療法、遺伝子治療さらには再生医療が進歩する中で当院利用者には何ができるのか考えさせられた三日間でありました。  
(副診療部長 荒井)

一日目は厚生労働省障害・発達障害者支援室長補佐からの行政説明の後、四つの分科会でパネルディスカッションが行われ、大野主査と私は重症児施設部会で行政官の説明のあと、船戸正久先生の看取りをめぐる話題、渡邊係長は在宅部会で末光茂先生の生涯学習の話題を聴講する機会を得られました。  
二日目は「みんなまで語ろう」の中で保護者の方々の思いをうかがった後、式典が行われ要望書の内容を確認して閉会となりました。  
(院長 加我)

### 第一二一回 日本小児科学会学術集会

(福岡県・福岡市)

平成三十年四月二十日(二十二日)、大会長廣瀬伸二教授(福岡大学小児科)のもと第一二一回日本小児科学会が福岡国際会議場で開催されました。大会のテーマである「その子どものしあわせのために」という会頭講演に続き、多数の一般演題はもちろん、分子生物学の発展と臨床応用など先進的議題に加えて小児科医の教育、医療体制、在宅医療、周産期脳障害、新生児スクリーニング、移行期医療、救急、感染症から心理要因による疾患まで、三十二のシンポジウム、三十二の教育セミナーの他、国際セッションなども行われる大規模な大会で、どの会場で聴講するか迷うほどの規模と内容でした。  
子どもたちのための臨床とそれを支える研究を大切に考える廣瀬先生のパワーとハートが感じられる小児科の祭典でした。  
(院長 加我)

「障害児・者の婦人科診療」

講師 竹内 正人 先生



講師の竹内 正人先生

平成三十年四月十七日  
(火) 婦人科医として、国内外でご活躍中の竹内先生にご講演をいただきました。

先生は女性のライフステージにおける内分泌機能と解剖学の基礎から始め、当センターの診療で出会うことの多い症状や疾患の診断と治療を中心に懇切丁寧な講義をしてくださいました。さらに生まれてくることもたちの命を守り、育むための数多くの発展途上国支援や養子縁組についてもお話してくださり一同感銘を受けました。

(院長 加我)

「関節リウマチの病態・診断・治療」

講師 梁 広石 先生



講師の梁 広石先生

平成三十年五月十五日  
(火) 順天堂東京江東高齢者医療センター総合診療科長、医学部准教授の梁広石先生にご講演をお願いしました。

関節リウマチは人口の〇・五%もの人に発症し、痛みや関節の変形で生活への支障が大きい疾患ですが、病態について最新の知見を考慮しつつ、新旧の薬剤を選択・駆使して早期から骨の炎症破壊を抑える治療の有効性を提示してくださいました。病気の根絶に向けての希望が感じられる素晴らしいご講演でした。

(院長 加我)

「有馬症候群遺伝子ものがたり」

講師 伊藤 雅之 先生



有馬 正高名誉院長 (左) と講師の伊藤 雅之先生 (右)

平成三十年六月十九日、国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第二部室長伊藤雅之先生をお迎えして「有馬症候群遺伝子ものがたり」というタイトルで医局講演会を開催しました。「有馬正高名誉院長が一九七一年「脳と発達」誌に特異的な臨床症候(重度知的障害、特徴的な顔貌、視覚障害、進行性腎機能障害を有する常染色体劣性遺伝性疾患として世界で初めて報告なされた稀な疾患です。

伊藤先生は有馬先生からのご指示と依頼を受け、繊維毛の機能異常疾患としての研究を進め、分子遺伝学的解析を行い有馬症候群に共通するCEP290遺伝子異常を明らかにするという素晴らしい成果を上げられました。

この研究は岩崎裕治副院長や井手秀平医長(現北療育センター城南分園長)らと共に二〇一八年日本小児神経学会英文機関誌Brain & Development誌に掲載されました。

有馬先生の優れた臨床の眼と洞察力により疾患単位を確立されたことは特記すべきことで、ご講演の記念に有馬先生と伊藤先生のツーショットを撮影させていただきました。

(院長 加我)



～ 給食の紹介 (栄養科) ～  
＜＜ 簡単ロールケーキ ＞＞

美味しいお菓子はこころを豊かにしてくれます。家族皆が安心して食べられる、ふわふわロールケーキの作り方をご紹介いたします。

材料 (2人前)

- 白黄粉 3個
- 卵 3個
- 卵黄 45g
- 小麦粉 10ml
- 砂糖 20ml
- 牛乳 120ml
- 生クリーム (高脂肪) 120ml
- 砂糖 77g
- 卵黄 5ml



【事前に準備しておくこと】 ◇ [27cm×27cm型] にクッキングシートをひいておく ◇ オープンを温めておく

- ① 巻き込む生クリームを用意しておく(フルーツ等を加える)
- ② 「卵白3個分+砂糖35g」をハンドミキサーで硬いメレンゲを作る。
- ③ 「卵黄3個分+砂糖30g」を合わせて、ハンドミキサーで少し白くなるまで泡立てる。続けて、砂糖・油・牛乳を加えて小麦粉を加えて十分に混ぜる。
- ④ ③にメレンゲ 1/3量を加え、ミキシングする。(ここまでは、ハンドミキサーで行ってよい)
- ⑤ ④に、残った2/3量の①を加え、ゴムベラで混ぜる。ボールを回しながらゴムベラを縦に切るように使い、メレンゲを潰さないよう注意。
- ⑥ クッキングシートを敷いた [27cm×27cm型] に⑤を流し、表面を平らにしてオープンで焼く。(加熱 205度・11分)
- ⑦ ⑥メレンゲが焼けたら、シートを取り除き、別のシートの上に乗せてまだやや温かいうちにクリームを巻き込む。  
\*コツ: スポンジは冷えると巻き込みが出来ません。弾力のある少し温かいうちに巻いて下さい。シートを上から引っ張るようにすると重力できれいに巻けます。
- ⑧ 冷蔵庫で少し冷やして、お召し上がり下さい。

作り方

看護の日



「看護の日」イベントのようす  
(スナモ 南砂町)

五月十五日(火)に「看護の日」のイベントを南砂町ショッピングセンターSUNAMOで開催しました。

イベント内容としては、血圧測定、脈圧測定、酸素飽和度測定等の健康度測定や看護相談、栄養相談を行いました。当日はセンターの利用者様やご家族の応援もあり、健康度測定や健康相談に六十六名という多くの地域の方々に参加頂き、大盛況の内に終了することができました。

二時間という短い時間でしたが、当センターの運営理念でもある「地域の方々との交流を通じて共に支えあう地域作り」のための活動ができたのではないかと考えています。

(二階西病棟 吉田)

運動会&体育祭

五月二十六日に、かもめ分教室小学部の運動会が本校体育館にて行われました。運動会では、先生やお父さん、お母さんからの温かくて大きな声援のなか、日頃の練習の成果を披露することができました。

六月九日には、中等部と高等部の合同で第三十二回 体育祭がおこなわれました。体育祭では、本校のみならず、にぎやかに踊りました。

(療育部)



みんなで記念撮影  
(小学部運動会にて)

和太鼓演奏会



和太鼓演奏会のようす  
(通所)

平成三十年六月十日(日)の十四時から成人通所のデイルームで和太鼓演奏会がありました。河乃裕希と和太鼓「飛翔・ひしょう」「飛響・ひびき」の方たち総勢十四名の合同演奏でした。十三時四十分過ぎから、多くの保護者の皆様や職員が利用者の方々の車椅子を押して会場に集まってきました。一番前で聞いていた利用者の方は、最初の大太鼓の一撃で両手両足を同時にびくつかせ、大きく目を見開いていました。グループ演奏、ソロ演奏、小太鼓の演奏等太鼓の大きな音や心地良い響きが腹に染み渡るような演奏会でした。四曲、三十分が限界との事でしたが、アンコールにも応えていただきました。

(療育部 鶴田)

通所延長療育

五月の四日間で延長療育が実施されました。延長療育当日は、予定していた利用者様が欠席し、人数の少ない日もありました。人数が少ない日はスヌーズルームに行き、音と光を楽しみました。三、四名が参加した日には、「クレヨンしんちゃんの風船ゲーム」等を皆で行い、楽しい時間を過ごしました。

帰りは、日が落ちて暗い中でのバスの送迎で、いつもと違う景色をながめながら帰宅しました。とても有意義な延長療育になりました。

(通所 延長療育担当)

勤続十年表彰

六月二十七日に日本重症心身障害福祉協会の永年勤続者十三名の表彰式が行われました。(庶務係)



加我院長(前列中央)と  
表彰対象者の皆さん



療育部事務室の皆さん  
(左から前段: 鶴田生活支援科長、藤野療育部長、山田看護科長、後段: 清水研修教育担当師長、田中リスクマネジャー・看護主査)

療育部事務室は四階の中央部、診療部長室と副院長室の間にあります。事務室前の掲示板には、「感染情報」「RCT」通信、「床ずれとこちゃん」「アトラクションボ

東部あれこれ

四月から六月の話題です。

【四月】

今年は季節の移行が速

ランティア」「研修案内」や最新の看護・福祉関係雑誌情報と掲載に揭示されていきます。朝夕の登庁、退庁時にじっと見つめる職員がいます。様々な情報の発信基地でもあります。

事務室内には療育部長、看護科長、生活支援科長、研修教育担当師長、リスクマネジャー・看護主査がいますが、療育部全体では一五〇名以上の職員がいます。日夜二十四時間切れ目なく医療ケアと生活支援を行いつつ、利用者の生活の安全と質の向上のために頑張っています。

全ての利用者の方々に健やかに「生きて良かつた」と思ってもらえる支援をしていきたいと療育部一同努力を重ねています。(療育部)

く、夏を思わせる気候の中で、新しい通所者や新入職員を受け入れて新年度が始まりました。かもめ分教室でも、昨年度小学部、中学部を卒業した児童・生徒はそれぞれ中学部、高等部へ入

学したほか、他の学齡児は皆、一つずつ進級し、新しい勉強のスタートです。二十八日、恒例となった葛西臨海水族園の移動水族館が今年も海の香りを運んできてくれました。

【五月】



五月に入って更に真夏のような陽気が続きましたが、入所者は皆元気で、こどもの日は、ちらし寿司と鯉のぼりケーキで祝いました。

また五月からは、病棟のバスハイクや通所の遠足、延長療育などの活動がスタートしました。

実習生の受入れも始まり、医師や歯科衛生士、言語聴覚士を目指す学生が真剣に学んでいかれました。

【六月】

梅雨入りし、雨模様の日が多くなってきました。が、外出等の活動も予定通り行うことができました。

十日の和太鼓演奏会では、身体に響く太鼓の音に、驚きと感動を味わいました。

好評のお楽しみ企画「ランチ」どっちの料理?」は皆の人気投票で料理が決まります。先月は牛肉ど真ん中弁当がステーキに勝ちましたが、今月はチキン南蛮対チースタックルビで、チースタックルビに軍配が上がりました。いずれも皆で仲良く美味しく頂きました。

二十八日のかもめ分教室芸術鑑賞会では、学齡児以外の利用者も参加して、ヴァイオリン、フルート、クラリネット、ピアノの美しい音楽を堪能しました。



芸術鑑賞会のようす

《新人紹介》

薬剤検査科長 舩津 久美 さん

四月から、薬剤検査科長として勤務させていただくこととなった舩津です。時の流れは速く、もたもたしているうちに、もう三ヶ月たつてしまいました。急性期の病院ばかりを渡り歩いていましたので、今回のセンターでは教えていただくことばかりです。変な質問をしてもどうぞかお許してください。

さて、この文章が掲載されるころは、サッカーワールドカップが終了しているかもしれませんが、チーム東部療育の一員になれるよう今後ともよろしくお願いします。



【編集後記】

梅雨時の通勤の道すがら紫陽花の青紫がとても綺麗な季節になりました。仕事で疲れたときには、中庭の紫陽花をご覧になってはどうでしょうか。

今年、六月二十九日に梅雨が明けました。体調を整え、暑さに負けないように夏を乗り越えましょう。



ご覧から草花のわかれ方  
をこちら  
のページ  
で  
ご確認ください  
←  
QRコード